



暮らしプラス

# 西日本新聞

夕刊

発行所 西日本新聞社 〒810-8721 福岡市中央区天神1丁目4番1号 ©西日本新聞社 2013年 ☎092(711)5555(代)

2013年(平成25年)11月5日(火曜日)

パソコンより手軽

スマホより見やすく

## タブレット



## シニアの選択

60、70代のシニア層にタブレット端末を使いこなす人が増えている。携帯電話やスマートフォン(多機能携帯電話)よりも画面が大きくて見やすく、パソコンのキーボード操作が苦手でも扱いやすいというのが人気の理由のよう。一方で、デジタル機器が苦手なシニアには「世間から取り残される」ことの不安もじわり。インターネットでしか利用できない通信販売や宅配サービスも増えており、シニア層の「デジタル格差」は新たな社会問題になりつつある。(池田郷)

「きれいな、え、ですね」。タブレットの音声入力機能を使って「きれいな絵」と画面に「きれいな絵です」と変換された文字が表示された。端末を手に田中美代子さん(69)＝福岡県太宰府市＝は「簡単でしょ?」とにっこり。画面の「投稿」と表示された部分を指先で

写真＝音声入力などの機能を使いタブレット端末を操作する田中美代子さん(左)と藤沢修三さん

んはFBを始めて1年足らず。「新しい知り合いが一気に増えた」。FBで情報を交換し合う「友達」はもうすぐ100人になる。

以前から携帯電話は持っていたが、ネット利用などは無縁。「携帯を家に置き

忘れて外出し、よく娘に小言を言われていた」。その田中さんがいま頼りにしているのは、シニア世代にタブレットの操作を教えている藤沢修三さん(65)＝同県筑紫野市。「携帯販売店の若い店員さんの説明は横文字が多くて苦手。同世代になら気兼ねなく聞ける」と田中さん。

藤沢さんは、タブレットなどに取り込む高齢者向け

**ワードBOX** タブレット端末 液晶画面に指先で触れるだけで操作できるタッチパネル機能が特徴で、音声による文字入力も可能。ネット検索や電子メール、写真、動画、電子書籍、ゲーム、映画観賞など多くの機能が利用できる。日本市場では米アップルと、米IT大手グーグルの端末を製造する台湾ASUS(エイサス)が「2強」。アップルが1日に「iPad(アイパッド)」の5代目新機種「iPad」を発売するなど関係業界の競争も激化している。

## 苦手派に救いの手も

デジタル情報端末の普及率などを調査するMMD研究所(東京)が9月に実施したアンケートによると、60歳以上のネット利用者543人のうち、タブレット端末を持つ人の割合は21.5%で前年より6.8%増えた。一方で65～69歳の約4割、70～79歳の6割近くがネットを使えないという総務省の最新調査もある。

「年寄りはお断り」と言われているようで、悲しくなる。福岡市内に一人で暮らす女性(73)は打ち明

ける。商品宅配サービスをうたう、スーパーなどのチラシの多くに「注文はインターネットで」とある。携帯電話は持っているが、ネットは使えない。こうしたシニアが多いことを商機ととらえる企業もある。東京の通販会社は、新聞広告でシニア向け商品を数多く紹介。アナログ方式で録画した古いビデオ映像やカセットテープの音源をデジタル保存できる商品の販売が堅調という。売りの文句は「パソコン不要」。商品ははがきや電話でも注文できる。

機能(アプリ)の開発会社「デジ・アド」＝福岡市博多区、092(432)7551＝を運営。「自分史」をまとめたり、家族や友人との記念写真を整理したりできるアプリ「私ノート」

九州各地の新鮮情報が満載です

本日の夕刊広告は

企画・制作/西日本新聞社広告局

が人気だ。葬儀や相続について生前から考える「終活」にも活用できる。「体が弱って外出できなくなっても、情報端末を使えば社会とのつながりが切れず、孤独にならない。認知症の予防効果も期待できる」

超高齢化時代の課題に「買い物難民」増加もある。生鮮食品店が家から500m以内になく、車もない人を指す。その数、全国約910万人。ネット通販などを活用しなせるシニアが増えれば、解決への一助になる。総務省は高齢者のデジタル格差解消に向け、来年度予算に関連事業費を盛り込む方針。地域の公民館にシニア講師を派遣する事業などを検討している。